

概

況

概 況

1 取扱高

(1) 年間取扱高

総取扱高

平成12年中(1月5日から12月30日、開市日数 275 日)の総取扱数量は、722,672 t で前年比 100.9 % で僅かながら前年を上回り、総取扱金額は、639,782 百万円で前年比 96.6 % と僅かに前年を下回った。

総平均価格は、前年に比べ 40 円安の 885 円となった。

取扱数量と平均価格を大分類別に比較すると、次のとおり。

鮮 魚

めじ、かつお、さんまが増加し、めばち(輸入)、またい(養殖)、しろさけ、さんまが減少したが、取扱数量は 197,850 t で前年比 101.4 %、平均価格は 38 円安の 912 円となった。

活 魚

またいが増加し、あなご、かんばちが減少したが、取扱数量は 15,691 t で前年比 96.0 %、平均価格は 46 円高の 1,479 円となった。

貝 類

生鮮・冷凍ともに前年を下回り、取扱数量は 52,390 t で前年比 99.0 %、平均価格は 20 円安の 895 円となった。

生鮮貝類では、あさり、あおやぎ、むきかきが増加し、しじみ、ほたて貝、さざえが減少した。

冷凍魚

めばち、するめいか(国内)、ぎんさけが増加したが、ほんまぐろ、めかじき、ぎんたらが減少し、取扱数量は 186,840 t で前年比 104.3 %、平均価格は 75 円安の 1,037 円となった。

淡水魚

あゆ、うなぎが増加し、冷あゆが減少したが、取扱数量は 3,152 t で前年比 113.4 %、平均価格は 307 円安の 1,043 円となった。

海草類

生こんぶ、わかめの生、塩、もずくなど主立った品目が軒並み減少し、7,577 t で前年比 98.9 %、平均価格は 25 円安の 437 円となった。

加工品

練製品類、湯煮品類が増加し、塩蔵品類、塩干品類、素干品類が減少、取扱数量は 259,170 t で前年比 98.9 %、平均価格は 29 円安の 729 円となった。

(2) 月別取扱高

— 1 月 —

☆ 鮮 魚

取扱数量	13,567 t (対前年比 101.6 %)
平均価格	1,081 円 (// 34 円高)

取扱数量では、まぐろ類は、きわたの国内物が対前年比 3 倍増、めじが倍増の実績を示したほか、輸入物もほぼ倍増したが、類計では 14 % の伸びにとどまった。まあじは、九州・山陰物を主力に前年並み。まいわしは、三重物を主力に 18 % 増。するめいかは、九州物主体で 6 % 減。はまちは、入荷の最盛期が過ぎたこともあり、5 % 減。たら類は、8 % の減となった。あんこうは、大幅な入荷減となった前年をさらに下回り、16 % の減となった。

平均価格では、まぐろ類は国内物およびめじが 30 % 安。輸入物が 6 % 安。めばちは、国内物が 18 % 高、輸入物が 4 % 安となった。まあじ、まいわし、さば、するめいかはいずれも前年並み。はまちは 10 % 高。あんこうは入荷減から 16 % 高となった。

☆ 活 魚

取扱数量	1,283 t (対前年比 101.5 %)
平均価格	1,392 円 (// 19 円高)

取扱数量では、またいが 10 % 増、あなごが 9 % 増、はまちが 9 % 増、かんばちが 2.4 % 増となり、ひらめが 3 % の減となった他、たこが 19 % の伸びを示した。

平均価格では、かんばちが 13 % 高、あなごが 9 % 高を示し、またい・ひらめはほぼ前年並み。たこが 3 割安と大きく落ち込んだ。

☆ 貝 類

取扱数量	4,565 t (対前年比 100.8 %)
平均価格	899 円 (// 3 円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あおやぎが 16 % 増、むきかきは 6 % 増、あさりが 3 % 増、はまぐりは前年並み、むきほたて貝が 11 % 減、ほたて貝が 14 % 減となり、全体ではほぼ前年並みとなった。

平均価格では、むきほたて貝が 12 % 高、あさは 3 % 安、あおやぎが 23 % 安となったものの、全体ではほぼ前年並みとなった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、2 % 増加。平均価格は 3 % 高。

☆ 冷凍魚

取扱数量	11,224 t (対前年比 94.4 %)
平均価格	1,120 円 (// 25 円高)

取扱数量では、まぐろ類はほんまぐろが 23 % 減、印度まぐろが 17 % 減を示したものの、主力のめばちは 7 % 増加し、類計では 1 % の減少にとどまった。いか類は、もんこういが 14 % 減を示したものの、するめいかの国内物が 14 % の伸びを示し、類計では 8 % 増加した。さけ・ます類は、ぎんさけが 34 % 増、べにさけがほぼ倍増したが、しろさけが 63 % 減、ますが 74 % 減と大きく落ち込んだこともあり、類計では 3 % 減となった。えび類は、主力のインドネシアが 19 % 減、インドが 15 % 減で、類計で 7 % 減となった。さばは 42 % 減、たこは、6 % 減。

平均価格では、まぐろ類はめばちの 5 % 高と全体的に高値で、類計でも 3 % 高となった。いか類は、するめいかが 3 割の大幅安を示すなど全体的に安値で、類計でも 7 % 安。さけ・ます類は、べにさけ・ぎんさけともに値を下げ、類計では 3 % 安となった。えび類は 6 % 安、さばは 16 % 安、たこは 34 % 安。

☆ 加工品

取扱数量	18,795 t (対前年比 101.5 %)
平均価格	676 円 (// 33 円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩べにさけが 2.6 倍増、塩あきさけが 43 % 増加したものの、塩しろさけは 44 % 減ったこともあり、類計では 5 % 増にとどまった。塩干品類は、丸干いわしが 17 % 増、開干あじが前年並み、開干さんまが 12 % 減となり、類計では 2 % 減となった。煮干製品類は、しらす干が 27 % 増、煮干いわしが 46 % 減で、類計は 11 % 減。練製品類は、揚物が 10 % 増で、類計が 5 % 増。湯煮品類は、煮たこは 38 % 増で、類計は 16 % 増。

平均価格では、塩蔵品類は塩べにさけが 4 割安、塩しろさけは 15 % 安、塩あきさけが 1 % 安となり、類計で 4 % 安となった。塩干品類は丸干いわしが 6 % 安、開干さんまが 5 % 高で類計では 3 % 安となった。煮干製品類は 15 % 安で、練製品類は 6 % 安となった。

— 2 月 —

☆ 鮮 魚

取扱数量	13,494 t (対前年比 98.9 %)
平均価格	1,039 円 (// 50 円高)

取扱数量では、まぐろ類は国内物が3倍増、きわたの国内物が2.5倍増、輸入物が94%増加した反面、めばちの国内物が9%減、めばちの輸入物が6%減少し、類計としては19%の増加となった。まあじは九州・北陸物を中心に7%減り、さばは九州・沼津・房州などを主体に22%減。するめいかは九州・山陰物を中心に18%減。はまちは前年並み。かつおは遠州灘での好漁の影響で紀州物を中心に倍増。

平均価格では、まぐろ類は国内物の4割安をはじめとして軒並み低迷した。まあじは1割高、さばは2割高、するめいかは5%高となり、はまちはほぼ前年並み。好漁のかつおは2割安となった。

☆ 活魚	取扱数量	1,205 t (対前年比 102.5%)
	平均価格	1,446 円 (// 39 円高)

取扱数量では、またいが19%増、ひらめが14%増、あなごが2%増、かんぱちが10%減、はまちが11%減となった。

平均価格では、またいが2%高、ひらめが8%安、あなごが13%安、かんぱちが3.5割高、はまちが5%高となっている。

☆ 貝類	取扱数量	4,716 t (対前年比 101.1%)
	平均価格	861 円 (// 4 円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、ほたて貝が18%減、さざえが12%減ったが、あさが3%増、むきかきが5%増、しじみが8%増、あおやぎが51%の増加となり、類計では1%の増となった。

平均価格では、ほたて貝が1%高、さざえが6%高、あさが2%安、むきかきが2%安、しじみが前年並みと堅調な中、あおやぎは4割安と落ち込んだ。類計では1%安となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は2%増、平均価格は5%高。

☆ 冷凍魚	取扱数量	14,639 t (対前年比 106.6%)
	平均価格	1,018 円 (// 11 円安)

取扱数量では、まぐろ類はほんまぐろが30%の減少したものの、主力のめばちは20%増加したため類計では9%増となった。いか類は、主力となるするめいか国内物が30%の増加を示したため、するめいかの輸入物やもんこういかが減少したにもかかわらず、類計としては4%増加した。さけ・ます類はべにさけが倍増以上の伸びを示したものの、そのほかの品目が軒並み前年を下回ったため、類計としては17%の減となった。えび類は、主力のインドネシアが15%増、インドが38%増となり類計では18%増、たこはほぼ倍増、かれい類は前年並み。

平均価格では、まぐろ類はほんまぐろがほぼ3割高、印度まぐろがほぼ前年並みとなったが、主力のめばちが2%安となったため、類計では3%安となった。いか類は、するめいかの国内物が3割安となり、類計でも12%安となった。さけ・ます類は、主力のぎんさけが13%安となり、類計でも5%安となった。えび類は、主力のインドネシアが4%安、インドが7%安だったが類計ではほぼ前年並み。たこは、38%の大幅安。かれい類は23%高。

☆ 加工品	取扱数量	20,916 t (対前年比 103.9%)
	平均価格	660 円 (// 45 円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩しろさけが39%減、いくらが32%減、すけこが12%減ったものの、塩ぎんさけが9%増、塩べにさけがほぼ倍増し、類計では8%減。塩干品類は、開干あじが3%増、ししゃもが27%減で類計は1%減。煮干製品類は、しらす干しが25%増となったもののそのほかの品目がおおむね減少したため、類計では8%減となった。練製品類は9%増となった。

平均価格では、塩蔵品類は、塩べにさけが39%安、塩ぎんさけが11%安となったが、塩しろさけが3%高、いくら・すけこが2割高となり、類計では3%高。塩干品類は、開干あじが2%安、ししゃもが6%高、類計では2%安。煮干製品類は煮干えびが4倍強の価格を示したが、しらす干しが3.5割安になるなど主力商品が軒並み安かったため、類計では18%安となった。練製品類は7%安となった。

— 3 月 —

☆ 鮮魚	取扱数量	15,110 t (対前年比 97.4%)
	平均価格	1,040 円 (増減なし)

取扱数量では、まぐろ類は輸入物・めじ・きわたの国内物がそろってほぼ倍増したが、国内物が14%の減、めばちの輸入物が16%の減、びんなが25%の減となり、類計としては5%の増。まあじは九州・北陸物を主体に14%減、さばは九州・沼津物を中心に27%減、まいわしは房州・三重物を主力に19%増、するめいかは九州物が主体で8%減、はまちは6%増、かつおは四国・九州物が主体で35%増。

平均価格では、まぐろ類は国内物が19%安、輸入物が8%安、めじが大きく下げて6割安、きわたの輸入物が29%安と安い品目が目立つが、その中でめばちの国内物は12%高、びんなが5割高であり、類計では3.2%高となった。まあじは3%高、さばは21%高、まいわしは8%安、するめいかは15%安、はまちは5%安、かつおは2割安となった。

☆ 活魚	取扱数量	1,343 t (対前年比 91.8%)
	平均価格	1,504 円 (対前年比 67 円高)

取扱数量は、あなごが14%減、かんぱちが25%減、またいが13%減、ひらめが前年並。

平均価格は、あなごが5%高、かんぱちが大きくあげて5割高、またいが5%安、ひらめが3%安。

☆ 貝類	取扱数量	4,796 t (対前年比 95.2%)
	平均価格	857 円 (対前年比 33 円安)

<生鮮貝類>

取扱数量は、はまぐりとあか貝が5%減、むきかきが10%減、あおやぎが3%減。

平均価格は、はまぐりが5%安、あか貝が18%安、むきかきが8%安、あおやぎが11%安。

<冷凍貝類>

取扱数量は、3%減。平均価格は、4%高。

☆ 冷凍魚	取扱数量	18,360 t (対前年比 111.7%)
	平均価格	961 円 (対前年比 93 円安)

取扱数量は、まぐろ類は主力のめばちが4%増、印度まぐろが14%減となり、類計では4%減。いか類は、するめいかの国内物が19%増、もんこういかが13%減、むきいかが32%減となり、類計では8%増となった。さけ・ます類は主力のぎんさけが35%増、べにさけがほぼ倍増となり、類計で8%増となった。えび類は、あかえびが23%増、輸入の主力のインドネシアが10%減、インドが64%増となり、類計では16%増。かに類は27%減、ぎんたらが2%増、さばが12%減、たこが80%増。

平均価格は、まぐろ類はめばちが3%安、印度まぐろが前年並で、類計でも前年並。いか類は、するめいかが28%安、もんこういかが2割安、むきいかが1割高で、類計で1割安。さけ・ます類は主力のぎんさけが18%安、べにさけが4割安で、類計が14%減。えび類はあかえびが14%安、インドネシア・インドがほぼ前年並みで、類計で6%安。かに類は13%高、ぎんたらが26%高、さばが22%安、たこが38%安。

☆ 加工品	取扱数量	22,544 t (対前年比 99.5 %)
	平均価格	711 円 (対前年比 47 円安)

取扱数量は、塩蔵品類は塩べにさけが倍増、塩ぎんさけが40%増、いくらが37%減で類計は3%減。塩干品類は開干あじが5%減、類計では前年並。煮干製品類は煮干えびがほぼ取扱がなくなったほか、こうなごが62%減と大きく落ち込んだことを受けて34%減。湯煮品類は、煮たこが44%増、類計は20%増。焼物製品類は23%増。

平均価格は、塩蔵品類は塩べにさけが38%安、塩ぎんさけが18%安で、類計は2%安。塩干品類は前年並。煮干製品類は煮干えびが前年同期の5倍弱となったほか、こうなごが4割高となったが、他の品目が安かったため、類計では3%高にとどまった。湯煮品類は煮たこが3割安、類計でも2割安となった。焼物製品類は、18%安となった。

－ 4 月 －

☆ 鮮 魚	取扱数量	14,789 t (対前年比 98.5 %)
	平均価格	979 円 (対前年比 40 円安)

取扱数量は、まぐろ類は国内物が19%増、輸入物が5%減、きわたの国内物が倍増、びんながが半減で、類計としては前年並。まあじは九州・山陰物主体に5%減。さばは九州物主体に14%減。まいわしは房総物中心に2%増。するめいかは九州・山陰物を中心に1%増。かつおは九州・房州物を主体に潤沢に入荷し、47%増。

平均価格は、まぐろ類は国内物が1割安、輸入物が16%安、きわたの国内物とめじが3割安、びんながが4割高で、類計では2%安。まあじは3%安、さばは7%高、まいわしは前年並、するめいかは5%安、かつおは4割安。

☆ 活 魚	取扱数量	1,300 t (対前年比 89.4 %)
	平均価格	1,530 円 (対前年比 167 円安)

取扱数量は、あなごが22%減、かんばちが46%減、またいが13%増、ひらめが3%減。

平均価格は、あなごが23%高、かんばちが79%高、またいとひらめが2%高。

☆ 貝 類	取扱数量	1,300 t (対前年比 89.4 %)
	平均価格	1,530 円 (対前年比 167 円安)

< 生鮮貝類 >

取扱数量は、はまぐりが17%減、あか貝が6%増、さざえ

が14%減、あおやぎが大きく伸びて86%増、むきほたて貝が7%減で、類計では2.3%増。

平均価格は、はまぐりが7%安、あか貝が18%安、さざえが2%安、あおやぎが46%安、むきほたて貝が2%高。類計では1割安となった。

< 冷凍貝類 >

取扱数量は、3%減。平均価格は、6%高

☆ 冷凍魚	取扱数量	17,108 t (対前年比 97.9 %)
	平均価格	983 円 (対前年比 74 円安)

取扱数量は、まぐろ類は、主力のめばちが5%増となっているものの、ほんまぐろが27%減、きわたが45%減など、他の品目がほとんど減少したため、類計では4%の減。いか類はするめいかの国内物が14.6%増、もんこういかが74%増、むきいかが26%減で類計が15%増。かれい類は、あさばかれいが19%増、からすかれいが88%増で、類計で39%増。さけ・ます類はべにさけが88%増となったものの、主力のぎんさけの19%減をはじめとして他の品目が軒並み減少したため、類計では35%減。えび類は、輸入のインドネシアが31%減、インドが58%増となり、類計では10%減。さばが4%減、たこが26%増、ぎんたらが44%減。

平均価格は、まぐろ類はめばちが5%安となったが、ほんまぐろが12%高、きわたが15%高と他の品目は軒並み高く、類計では3%安。いか類はするめいかの国内物が3割安、もんこういかが2割安、むきいかがほぼ前年並み。類計では、11%安となった。かれい類は、あさばかれいが1割高、からすかれいが2割安で、累計では5%安。さけ・ます類は主力のぎんさけが2割安となり、ますのすけ以外の品目も軒並み低迷したため、類計では15%安。えび類はおおむね前年並み、さばは3割安、たこが35%安、ぎんたらは3割高。

☆ 加工品	取扱数量	22,550 t (対前年比 97.6 %)
	平均価格	699 円 (対前年比 60 円安)

取扱数量は、塩蔵品類は単価安からあきさけが140%増、べにさけが136%増、ぎんさけが69%増となり、いくらが36%減、すけこが34%減で、類計は10%増。塩干品類は丸干いわしが18%増、開干さんまが23%減、類計では6%減。煮干製品類は煮干いわしが39%減、こうなごが6%増、しらす干が23%減で、類計は19%減。焼物製品類は14%増、素干製品類は干するめ

図 1 - 1 総取扱数量の動き

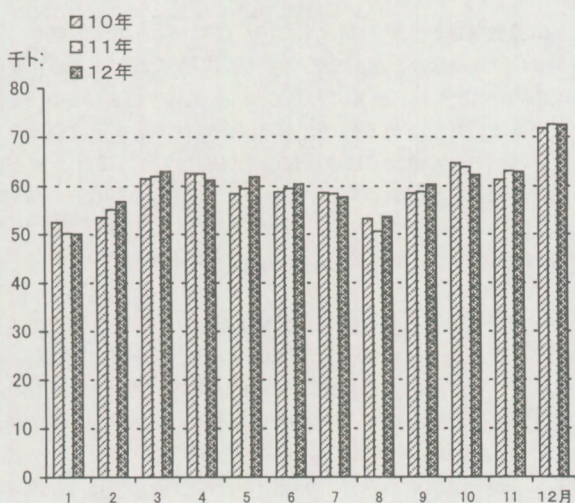


図 1 - 2 総平均価格の動き

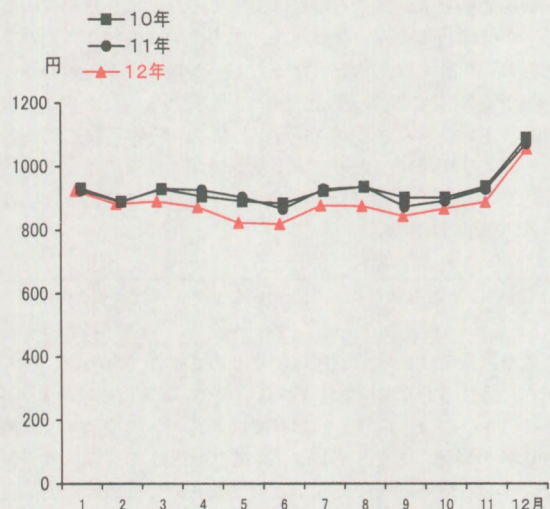
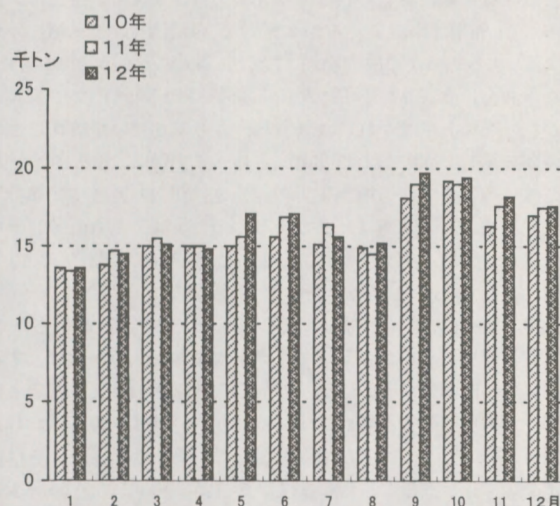


図 2-1 鮮魚取扱数量の動き



が 18%減、身欠にしんが 15%減、類計では 3.5%減。湯煮品類は煮たこが 32%増、類計で 15%増。

平均価格は、塩蔵品類はあきさけが 34%安、べにさけが 44%安、ぎんさけが 22%安、いくらが 2 割高、すけこが 38%高、類計で 16%安。塩干品類は丸干いわしが 4%安、開干あじが 5%安、類計では 3%安。煮干製品類は 11%安。焼物製品類は 16%安。素干品類は 12%安。湯煮品類は 19%安。

— 5 月 —

☆ 鮮 魚	取扱数量	17,140 t (対前年比 110.2%)
	平均価格	824 円 (対前年比 98 円安)

取扱数量は、まぐろ類はまぐろの国内物がほぼ倍増、きわたの国内物が 2 割増で、まぐろの輸入物が 22%減、めばちの輸入物が 11%減となり、類計では 12%増となった。まあじは九州・山陰・北陸ものを主体に 4%増。さばは九州・四国・紀州ものを主体に 2%減。まいわしは房総もの・北陸ものを主体に 24%増。するめいかは山陰ものが主体で 14%減。かつおは房州ものを主体に 4 割増。はまちは 2%増、またい(養殖)はほぼ前年並み。

平均価格は、まぐろ類はきわたの輸入物が 1 割高となった以外はいずれも前年を下回り、まぐろの国内物が 21%、輸入物が 7%、きわたの国内物が 10%、めばちの輸入物が 4%、いずれも前年を下回った。類計では 7%安となった。まあじは 14%安、さばは 2%高、まいわしは 23%安、するめいかは前年並、かつおは大きく下げて 44%安、はまちは 6%安、またい(養殖)は 6%高。

☆ 活 魚	取扱数量	1,411 t (対前年比 100.7%)
	平均価格	1,362 円 (対前年比 15 円高)

取扱数量は、あなごが 2%増、かんばちが半減、はまちが 4 割増、またいが 28%増、ひらめが 7%増。

平均価格は、あなごが前年並み、かんばちが 8 割高、はまちが 2%安、またいが 1 割安、ひらめが 1%安。

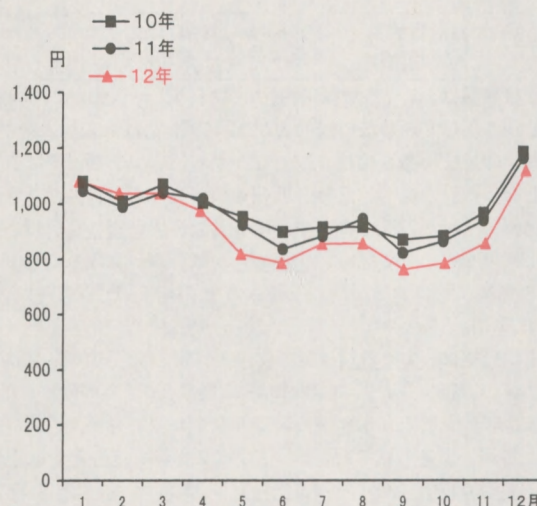
☆ 貝 類	取扱数量	4,398 t (対前年比 110.0%)
	平均価格	833 円 (対前年比 61 円安)

<生鮮貝類>

取扱数量は、あさりが 17%増、しじみが前年並み、はまぐりが 6%減、あか貝が 18%増、ほたて貝が 7%減、あおやきが 46%増で、類計では 11%増。

平均価格は、あさりが 2%安、しじみが 3%高、はまぐりが 5

図 2-2 鮮魚平均価格の動き



%安、あか貝が 21%安、ほたて貝が 4%高、あおやきが 26%安で、類計では 8%安。

<冷凍貝類>

取扱数量は、3%減。平均価格は、7%高。

☆ 冷凍魚	取扱数量	15,693 t (対前年比 103.7%)
	平均価格	975 円 (対前年比 79 円安)

取扱数量は、まぐろ類は、主力のめばちが 8%増、印度まぐろは前年並み、ほんまぐろは 13%減となり、類計ではほぼ前年並み。いか類は、するめいかの国内物が 29%の伸びを示したものの、その他の品目はほぼ減少し、特に荷動きの悪いもんこういかは 56%減、むきもんこうは 31%減で、類計では 11%減。さけ・ます類は、末端消費の不振が響き、主力のぎんさけは 18%減、その他の品目も大きく落ち込み、類計では 21%減。えび類は主力のインドネシアが 6%増、インドが 10%減、あかえびが 4%減で、類計は 5%増。ぎんたらは 35%減、さばは 68%増、たこは 63%増。

平均価格は、まぐろ類は、主力のめばちが 14%安、印度まぐろは 2%安、ほんまぐろは 3%高で、7%安。いか類は、するめいかの国内物が 3 割安、もんこういかは 12%安、むきもんこうは 4%安で、類計では 11%安。さけ・ます類は、主力のぎんさけが 23%安、他の品目もますのすけ以外は軒並み落ち込み、類計で 19%安。えび類はインドネシアが 3%安、インドが 4%高、あかえびが 2%安で、類計は前年並み。ぎんたらは 15%高、さばは 34%安、たこは 32%安。

☆ 加工品	取扱数量	22,134 t (対前年比 98.7%)
	平均価格	682 円 (対前年比 64 円安)

取扱数量は、塩蔵品類は、塩あきさけが 76 %増、塩しろさけが 25 %減、塩べにさけが安値のため 2.3 倍増、塩ぎんさけが 22 %増、すじこが倍増、いくらが 23 %減で類計では 2 %減。塩干品類は、丸干いわしが 26 %増、開干あじが 3 %減、開干さんまが 18 %減で、類計では 2 %減。煮干製品類は、こうなごが 58 %増、しらす干が 40 %減で、類計では 26 %減。素干品類は 2 %減、湯煮品類は煮たこが 26 %増、類計で 2 %増。

平均価格は、塩蔵品類は、塩あきさけが 37 %安、塩しろさけが 21 %安、塩べにさけが 45 %安、塩ぎんさけが 18 %安、すじこが 4 %安、いくらが 1 割高で、類計では 1 割安。塩干品類は、丸干いわしが 3 %高、開干あじが 2 %高、開干さんまが 1 割高で、類計では前年並み。煮干製品類は、こうなごが 4 割安、

しらす干が 14 % 安。素干品類は、4 % 安。湯煮品類は、煮たこが 29 % 安、類計で 13 % 安。

－ 6 月 －

☆ 鮮 魚	取扱数量	17,060 t (対前年比 100.7 %)
	平均価格	792 円 (対前年比 43 円安)

取扱数量は、まぐろ類は国内物が 32 % 減、輸入物が 29 % 減、めじが 3 % 増、きわたの国内物が 31 % 減、めばちの輸入物が 7 % 減、印度まぐろが倍増、びんながが 6 倍増で、類計では 9 % 減となった。まあじは北陸、九州ものが主体で 11 % 増、さばは房州、三陸、四国ものを中心に 5 % 減、まいわしは房州、神奈川ものを中心に 6 % 減、するめいかは青森、北陸ものを中心に 8 % 減、かつおは房州、三陸ものを主体に 22 % 増、はまちは 45 % 増。

平均価格は、まぐろ類は国内物が 1 % 安、輸入物が 24 % 高、めじが 26 % 安、きわたの国内物が 24 % 高、めばちの輸入物が 5 % 安、印度まぐろが前年並み、びんながが 12 % 高で、類計では 1 % 高。まあじは 22 % 安、さばは 2 % 高、まいわしは 1 割高、するめいかは前年並み、かつおは 33 % 安、はまちは 17 % 安。

☆ 活 魚	取扱数量	1,358 t (対前年比 99.1 %)
	平均価格	1,363 円 (対前年比 29 円高)

取扱数量は、あなごが前年並み、かんぱちが 46 % 減、またいが 22 % 増、ひらめが 5 % 増。

平均価格は、あなごが 2 % 高、かんぱちが 66 % 高、またいが 3 % 安、ひらめが前年並み。

☆ 貝 類	取扱数量	4,000 t (対前年比 102.6 %)
	平均価格	813 円 (対前年比 80 円安)

<生鮮貝類>

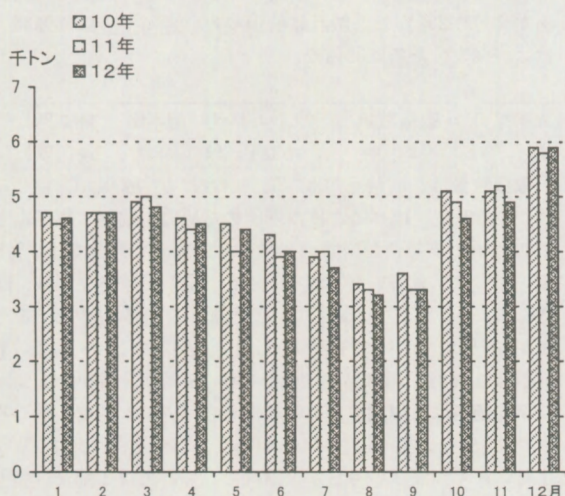
取扱数量は、あさりが 9 % 増、ほたて貝が 16 % 減、さざえが 23 % 減、あおやきが 11 % 増、むきほたて貝が 6 % 減、類計では 3 % 増。

平均価格は、あさりが 1 % 安、ほたて貝が 1 % 安、さざえが 6 % 高、あおやきが 37 % 安、むきほたて貝が 3 % 高、類計で 1 割安。

<冷凍貝類>

取扱数量は、6 % 減。平均価格は、前年並み。

図 3-1 貝類取扱数量の動き



☆ 冷凍魚	取扱数量	15,333 t (対前年比 108.2 %)
	平均価格	998 円 (対前年比 95 円安)

取扱数量は、まぐろ類は、ほんまぐろが 5 % 増、主力のめばちが 21 % 増、印度まぐろが 8 % 増で、類計では 15 % 増。いか類は、するめいかの国内物が 17 % 増、もんこういかが 53 % 減、むきもんこうが 27 % 減と大きく落ち込み、類計では 1 割減。かれい類はあさばかれいが 3 % 増、からすかれいが倍増以上の伸びを示し、類計では 43 % 増。さけ・ます類は、しろさけが 17 % 減、べにさけが倍増、主力のぎんさけが 27 % 増で、類計では前年並み。えび類は、あかえびが 15 % 減、主力のインドネシアが 1 % 増、インドが 71 % 増と大きく伸び、類計では 10 % 増。ぎんたらは 41 % 減、たこは 51 % 増。

平均価格は、まぐろ類は、ほんまぐろは 13 % 高、めばちが 24 % 安、印度まぐろが 1 % 安で、類計は 8 % 安。いか類は、するめいかの国内物が 26 % 安、もんこういかが 16 % 安、むきもんこうが前年並みで、類計は 1 % 高。かれい類は、あさばかれいが 6 % 高、からすかれいが 27 % 安で、類計で 9 % 安。さけ・ます類は、しろさけ、べにさけが 5 割安、ぎんさけが 26 % 安、類計で 25 % 安。えび類は、あかえびが 5 % 高、インドネシアが 6 % 高、インド 6 % 高で、類計で 3 % 高。ぎんたらは前年並み、たこは 3 割安。

☆ 加工品	取扱数量	21,473 t (対前年比 97.7 %)
	平均価格	679 円 (対前年比 29 円安)

取扱数量は、塩蔵品類は、塩あきさけが 96 % 増、塩べにさけが 67 % 増、塩ぎんさけが 19 % 増と、それぞれ連続 5 ヶ月、7 ヶ月、10 ヶ月連続で前年を上回った。すけこは 18 % 減、いくらは 12 % 減で、類計では 5 % 増。塩干品類は、開干あじは 2 % 減で、類計では 6 % 減。煮干製品類は、煮干いわしが 36 % 増、こうなごが 37 % 増、しらす干が 17 % 減で、類計では 1 割減。焼物製品類は前年並み。素干品類は、干しするめの国内物が 7 % 減、類計では 1 割減。湯煮品類は、煮たこが 17 % 増、類計では 2 % 増。

平均価格は、塩蔵品類は塩あきさけが 46 % 安、塩しろさけが 24 % 安、塩べにさけが 38 % 安、塩ぎんさけが 22 % 安、いくらが 23 % 高、すけこが 1 割高で、類計が 8 % 安。塩干品類は、開干あじが 2 % 安、類計では前年並み。煮干製品類は、煮干いわしが 2 割高、こうなごが 37 % 安、しらす干が 11 % 安で、類計では 11 % 安。素干品類は、干しするめの国内物が 15 % 安、

図 3-2 貝類平均価格の動き

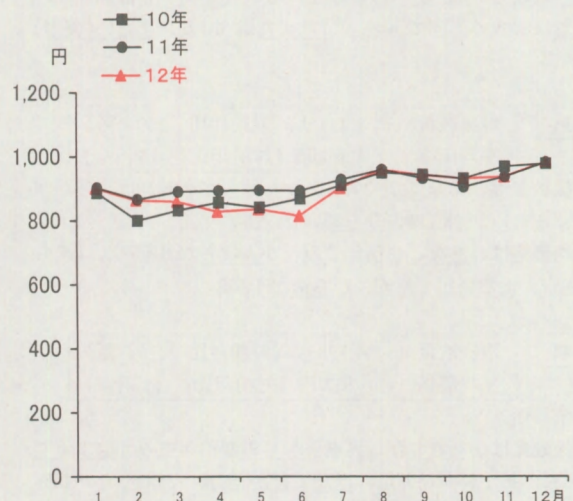
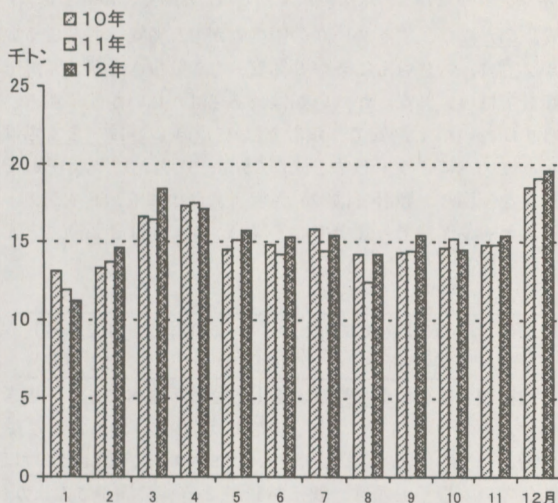


図 4-1 冷凍魚取扱数量の動き



類計では4%安。湯煮品類は、煮たこが26%安、類計で17%安。

— 7月 —

☆ 鮮 魚	取扱数量	15,564 t (対前年比 95.0 %)
	平均価格	862 円 (// 19 円安)

取扱数量は、まぐろ類は、国内物が倍増、めじが9割増と大きく伸びたが、輸入物、きわたの国内物が6割減、めばちの輸入物が3割減、印度まぐろが6%減と他の品目が低迷したため、類計では前年並み。まあじは長崎、三重物が主体で1割増、さばは三陸・神奈川ものを主体に7%減、まいわしは神奈川・千葉ものが主力で13%減、するめいかは、青森・北海道ものが主力で17%安、かつおは、宮城ものが主力で12%減、はまちは32%増。

平均価格は、まぐろ類は、国内物が2.3割安、めじが3割安と大きく落ち込み、輸入物の2.3割高を除いて全体的に低迷し、類計では11%安。まあじは18%安、まいわしは18%高、するめいかは3%高、かつおは7%安、はまちは15%安。

☆ 活 魚	取扱数量	1,307 t (対前年比 98.8 %)
	平均価格	1,518 円 (// 44 円安)

取扱数量は、あなごは前年並み、かんばちは24%減、またいは、1割増、ひらめは12%減。

平均価格は、あなごは2割安、かんばちは26%高、またいは4%高、いか類は2割高。

☆ 貝 類	取扱数量	1,307 t (対前年比 98.8 %)
	平均価格	1,518 円 (// 44 円安)

<生鮮貝類>

取扱数量は、あさりが2%減、あか貝が1割減、ほたて貝が6%増、さざえが33%と大幅減、あおやぎが4%減となり、生鮮貝類全体では7%減。

平均価格は、あさが4%安、あか貝が8%安、ほたて貝が7%高、さざえが6%高、あおやぎが8%安で、類計では3%安。

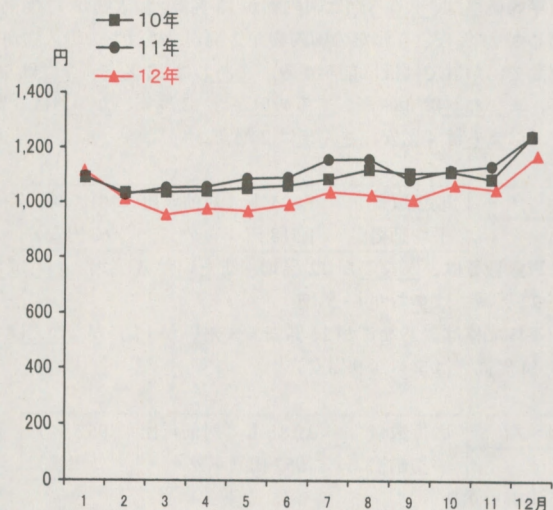
<冷凍貝類>

取扱数量は12%減少。平均価格はほぼ前年並みとなった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	15,379 t (対前年比 107.7 %)
	平均価格	1,044 円 (// 115 円安)

取扱数量は、まぐろ類は、主力のめばちが単価安から5%増となったが、そのほかはおおむね前年並みで、類計では2%増。

図 4-2 冷凍魚平均価格の動き



いか類は、するめいかの国内物が33%増、むきむらさきが53%増で、類計では15%増。かれい類は、からすかれいが13%増となったものの、あさばかれいの2割減をはじめとしてそのほかの品目はおおむね前年を下回り、類計では14%減。さけ・ます類は、ぎんさけが34%増、べにさけが加工筋の大口手当が入ったため7.6倍となり、類計では36%増。ぎんたらは43%増、たこは38%増。

平均価格は、まぐろ類は、主力のめばちが14%安、印度まぐろが7%安で、類計では1割安。いか類は、するめいかの国内物が23%安、もんこういかが26%安、むきむらさきが3%安、類計では17%安。かれい類は、あさばかれいが8%高、からすかれいが2%高で、類計では1割高。さけ・ます類は、ぎんさけが28%安、べにさけが55%安、類計で28%安。ぎんたらは前年並み、たこは2割安。

☆ 加工品	取扱数量	20,623 t (対前年比 97.0 %)
	平均価格	722 円 (// 46 円安)

取扱数量は、塩蔵品類は塩しろさけが9%、塩べにさけが4%、塩ぎんさけが7%、それぞれ減少し、いくらかも19%減、すけこは2%減で、類計では8%減。塩干品類は開干あじが11%減、類計では8%減。煮干製品類は、しらす干しが37%増、類計で21%増。焼物製品類は、蒲焼うなぎが14%減、類計で17%減。素干品類は、干するめの国内物が15%減、類計で18%減。湯煮品類は、煮たこが1割増、類計で1%減。

平均価格は、塩蔵品類は塩しろさけが23%、塩べにさけが27%、塩ぎんさけが22%、それぞれ前年を下回った。いくらは17%高、すけこは18%高で、類計では6%安。塩干品類は開干あじが2%安、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干しが9%安、類計では4%安。焼物製品類は、蒲焼うなぎは前年並み、類計では3%高。素干品類は干するめの国内物が14%安、類計で3%安。湯煮品類は、煮たこが21%安、類計で15%安。

— 8月 —

☆ 鮮 魚	取扱数量	15,234 t (対前年比 105.0 %)
	平均価格	865 円 (// 80 円安)

取扱数量は、まぐろ類は国内物が3割減、輸入物が7%減、めじが36%減、きわたの国内物が6.8倍増、めばちの輸入物が4%減で、類計は4%減。まあじは、長崎・三重物が主体で2割減。さばは、神奈川・岩手物が主体で22%減。まいわしは、千葉・伊東物が主体で29%減。するめいかは、青森、北海道

物が主体で 8.9 %増。かつおは、宮城物が主体で 13 %増。はまちはほぼ前年並み。さんまは、北海道物が主体で 34 %増。

平均価格は、まぐろ類は国内物が 13 %高、輸入物が 17 %高、めじが 23 %安、きわたの国内物が 2 割安、めばちの輸入物が 1 割高で、類計ではほぼ前年並み。まあじは 22 %安、さばは 9 %高、まいわしは 38 %高、するめいかは 12 %安、かつおは 3 割安、はまちは 4 %安、さんまは 2 割安。

☆ 活 魚	取扱数量	1,225 t (対前年比 101.3 %)
	平均価格	1,518 円 (// 60 円安)

取扱数量は、あなごが 12 %増、またいが 3 %増、かんばちが 22 %減、はまちが 63 %増。

平均価格は、あなごが 24 %安、またいが 15 %安、かんばちが 14 %高、はまちが 9 %安。

☆ 貝 類	取扱数量	3,181 t (対前年比 96.3 %)
	平均価格	957 円 (// 2 円安)

<生鮮貝類>

取扱数量は、あさりが前年並み、あか貝が 12 %減、ほたて貝が 1 割減、さざえが前年並み、あおやぎが 5 %増、むきほたて貝が 12 %減、類計では 4 %減。

平均価格は、あさりが 2 %安、あか貝が 7 %高、ほたて貝が 2 %高、さざえが 8 %安、あおやぎが 22 %安、むきほたて貝が 6 %高、類計では 2 %安。

<冷凍貝類>

取扱数量は 1 %減、平均価格は 6 %高。

☆ 冷凍魚	取扱数量	14,235 t (対前年比 114.5 %)
	平均価格	1,033 円 (// 127 円安)

取扱数量は、まぐろ類が、主力のめばちが単価安から 19 %増、印度まぐろが 11 %増、きわたが 42 %増、まぐろが 7 %減で、類計では 16 %増。いか類が、するめいかの国内物が前年並み、もんこういかが 1 %増、むきもんこうが 3 %減、むきむらさきが先高予想から買いが入って 89 %増で、類計では 4 %増。かれい類は、あさばかれいが 88 %増、からすかれいが 49 %増で、類計では 37 %増。さけ・ます類は単価安からぎんさけ・べにさけ・しろさけがそれぞれ 73 %、51 %、78 %増加し、類計でも 20 %増。えび類は引き合いが強く、主力のインドネシアが 3 %増、インドが 7 %増、類計では 5 %増。かに類は 31

%減。ぎんたらは 11 %減、たこは買い姿勢が強まり 69 %増。

平均価格は、まぐろ類が、めばちは 17 %安、印度まぐろが 2 %安、きわたが 28 %安、まぐろが 11 %高で、類計では 11 %安。いか類が、するめいかの国内物が 12 %安、もんこういかが 2 割安、むきもんこうが 8 %安、むきむらさきが 5 %高で、類計では 15 %安。かれい類は、あさばかれいが前年並み、からすかれいが 2 割安で、類計では 11 %安。さけ・ます類はぎんさけ・べにさけ・しろさけが 28 %、31 %、17 %、それぞれ前年を下回り、類計では 26 %安。えび類はインドネシア・インドとも 9 %高で、類計では 5 %高。かに類は 2 %高、ぎんたらは 5 %高、たこは 12 %安。

☆ 加工品	取扱数量	18,683 t (対前年比 102.4 %)
	平均価格	716 円 (// 22 円安)

取扱数量は、塩蔵品類は、塩しろさけ・塩べにさけ・塩ぎんさけがそれぞれ 11 %、7 %、5 %ずつ減少し、塩あきさけが 59 %増、いくらは 11 %増、すけこは 15 %減だが、類計ではほぼ前年並み。塩干品類は、開干あじが 2 %減、開干さんまが 14 %減で、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が 76 %増、類計では 46 %増。焼物製品類は、蒲焼うなぎが 22 %安、類計では 25 %安。素干品類は、干しするめの国内物が 40 %増、類計では 6 %増。湯煮品類は 3 %増。

平均価格は、塩蔵品類は、塩しろさけ・塩べにさけ・塩ぎんさけがそれぞれ 18 %、1 割、12 %ずつ前年同月を下回った。いくらは 11 %高、すけこは 14 %安、類計ではほぼ前年並み。塩干品類は、開干あじが 2 %安、開干さんまが 8 %高、類計ではほぼ前年並み。煮干製品類は、しらす干が 27 %安、類計では 2 割安。湯煮品類は 11 %安。

— 9 月 —

☆ 鮮 魚	取扱数量	19,699 t (対前年比 103.8 %)
	平均価格	771 円 (// 50 円安)

取扱数量は、まぐろ類は国内物が 4 割減、輸入物が 3 割減、めばちの国内物が 25 %減、めばちの輸入物がほぼ前年並みと大部分の品目が減少した中、めじが 4 倍増と大幅に実績を伸ばした。類計では 1 割の減となった。まあじは、長崎・千葉・三重物を中心に 4 %増、さばは岩手・千葉物を中心に 3 %減、いわしは千葉物を中心に 6 割減と大幅に減少。するめいかは青森・北海道物を中心に 5 %減、かつおは宮城ものを中心に 5 %減。さんまは北海道・宮城ものを中心に 21 %増。

図 5-1 加工品取扱数量の動き

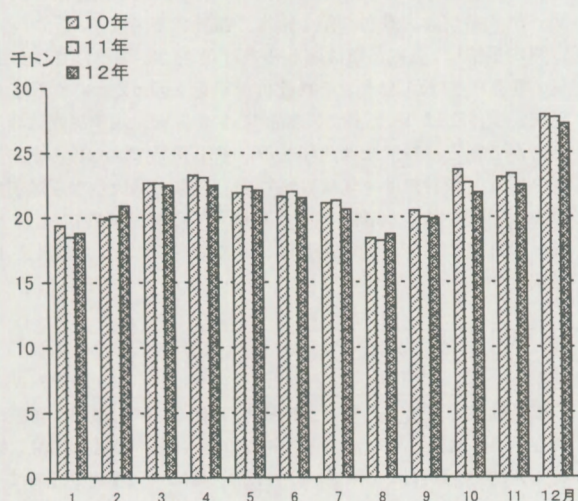
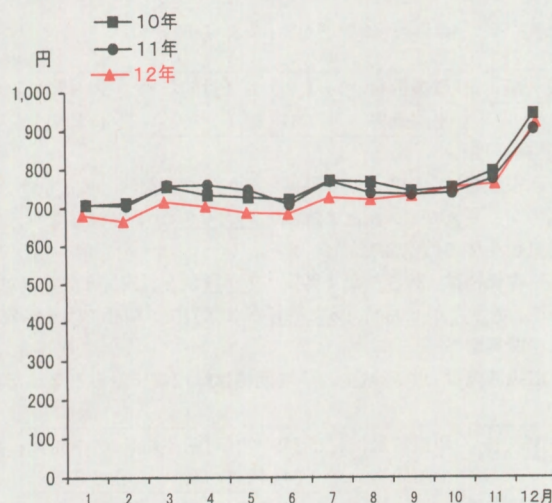


図 5-2 加工品平均価格の動き



平均価格は、まぐろ類は国内物が4割高、輸入物が2割高、めばちの国内物が23%高、めばちの輸入物が5%高、めじが5割安で、類計では4%高。まあじは12%安、さばは6.2%安、まいわしは品薄から7割高、するめいかは2%高、かつおは15%安、さんまは8%安。

☆ 活 魚	取扱数量	1,175 t (対前年比 96.3%)
	平均価格	1,619 円 (// 94 円高)

取扱数量は、あなごが3%減、かんばちが14%減、またいが3%増、はまちが14%減。

平均価格は、あなごが3%高、かんばちが8%高、またいが26%高、はまちが6%安。

☆ 貝 類	取扱数量	3,297 t (対前年比 99.6%)
	平均価格	940 円 (// 3 円安)

<生鮮貝類>

取扱数量は、あさりが2%増、あか貝が10%増、ほたて貝がほぼ前年並み、さざえが7%安、あおやぎが3%減、むきほたて貝が8%減で、類計では1%増。

平均価格は、あさりが3%安、あか貝が5%安、ほたて貝が5%安、さざえが9%高、あおやぎが1%安、むきほたて貝が5%高で、類計ではほぼ前年並み。

<冷凍貝類>

取扱数量は1割減、平均価格は1割高。

☆ 冷凍魚	取扱数量	15,362 t (対前年比 106.5%)
	平均価格	1,016 円 (// 69 円高)

取扱数量は、まぐろ類は、主力のめばちが23%増、印度まぐろが5%増、ほんまぐろが3%増、きわたが5割増で、類計では17%増。いか類は、するめいかの国内物が9%減、もんこういが5%減、むきいかは22%減、むきむらさきが54%増で、類計ではほぼ前年並み。かれい類はあさばかれいが6%増、からすかれいが21%増で、類計では7%増。さけ・ます類は、ぎんさけが86%増、べにさけが12%増、しろさけが8%減で、類計では38%増。えび類は、主力のインドネシアとインドがそれぞれ14%、48%減、あかえびが29%増で、類計では7%減。かに類は47%減、ぎんたらは63%増、さばは2%増、たこは11%増。

平均価格は、まぐろ類は、めばちが2割安、印度まぐろが3%高、ほんまぐろが6%高、きわたが3割安で、類計では11%安。いか類は、するめいかの国内物が1割安、もんこういが2割安、類計ではほぼ前年並み。かれい類はあさばかれいが6%高、18%安で、類計では8%安。さけ・ます類は、ぎんさけ・べにさけ・しろさけともそれぞれ24%・34%・13%安く、類計では22%安。えび類は、インドネシアが1割高、インドが2割高、あかえびが15%高で、類計では3%高。かに類は18%高、さばは24%安。

☆ 加工品	取扱数量	19,904 t (対前年比 99.6%)
	平均価格	726 円 (// 17 円安)

取扱数量は、塩蔵品類は、塩あきさけ・塩しろさけ・塩べにさけがそれぞれ23%・38%・7%減少したが、塩ぎんさけが80%の大幅増、いくらが20%増、すけこが32%減で、類計では14%減。塩干品類は、開干あじが前年並み、開干さんまが19%減で、類計では5%減。煮干製品類は、しらす干が10%減、類計では2%減。焼物製品類は、蒲焼うなぎが8%減、類計では1割減。素干品類は、干するめ(国内)23%増、類計では前年並み。練製品類は、1%増。湯煮品類は、煮たこが前年並み、類計では6%増。

平均価格は、塩蔵品類は、塩あきさけ・塩しろさけ・塩べに

さけ・塩ぎんさけはそれぞれ14%・13%・17%・31%安くなったが、いくら・すけこはそれぞれ24%・26%高く、類計では3%高。塩干品類は、開干あじが5%安、開干さんまが9%高で、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が3%減、類計では2%安。焼物製品類は、蒲焼うなぎが8%高、類計では8%高。素干品類は、干するめ(国内)が10%安、類計では3%安。練製品類は、2%安。湯煮品類は、煮たこが13%安、類計で12%安。

— 10 月 —

☆ 鮮 魚	取扱数量	19,367 t (対前年比 101.7%)
	平均価格	796 円 (// 66 円安)

取扱数量は、まぐろ類は、めじが漁況が良かったため7.3倍と大幅に増加したほか、国内物が2.8倍と大幅増、輸入物が16%減、めばちの国内物が18%減、めばちの輸入物が24%減で、類計で18%増。まあじは、千葉・三重物を主体に前年並み。さばは、千葉・岩手・宮城ものを主体に12%減。まいわしは、愛媛・新潟・千葉物が主体で53%減。するめいかは、青森・北海道物を中心に33%増。かつおは、宮城物を中心に前年並み。わらさは53%と大幅増、さんまは4%増。

平均価格は、まぐろ類は、国内物が22%高、輸入物が5%高、めばちの国内物が8%高、めばちの輸入物が5%安、めじが48%の大幅安で、類計では13%安。まあじは12%安、さばは3%安、まいわしは66%の大幅高。するめいかは27%安、かつおは14%減、わらさは37%安、さんまは16%安。

☆ 活 魚	取扱数量	1,207 t (対前年比 92.3%)
	平均価格	1,554 円 (// 50 円高)

取扱数量は、あなごが1%減、かんばちが13%減、かんばちが13%減、またいが12%減、ひらめが15%減。

平均価格は、あなごが2割安、かんばちが前年並み、またいが39%高、ひらめが7%高。

☆ 貝 類	取扱数量	4,552 t (対前年比 93.6%)
	平均価格	929 円 (// 25 円高)

<生鮮貝類>

取扱数量は、あさりが8%減、あか貝が12%減、1日に初せりを行いシーズンを迎えたかきが1%増、むきかきが8%増、しじみが10%減、ほたて貝が5%減、あおやぎが18%減、むきほたて貝が10%減で、類計では7%減。

平均価格は、かきが5%安、むきかきが12%安、しじみが6%高、ほたて貝が6%安、あおやぎが33%高、むきほたて貝が3%高で、類計では2%高。

<冷凍貝類>

取扱数量は3%減、平均価格は5%高。

☆ 冷凍魚	取扱数量	14,532 t (対前年比 95.6%)
	平均価格	1,069 円 (// 49 円安)

取扱数量は、まぐろ類は主力のめばちが6%増、印度まぐろが3%減、ほんまぐろが2割増、きわたが55%増で、類計では6%増。いか類は、するめいか(国内)が9%減、もんこういが52%減と半減で、類計では23%減。かれい類は、あさばかれいが2%増、からすかれいが56%増で、類計では3%増。さけ・ます類は、しろさけが2%増、べにさけが2%減、ぎんさけが34%増で、類計では6%増。えび類はあかえびが3割増、主力のインドネシアが、26%減、インドが64%と激減し、類計では19%減。かに類は煮たらばが54%減、煮ずわいが22%減で、類計では36%減。ぎんたらは7%減、さばは13%増、たこは3%減。

平均価格は、まぐろ類は、めばちが16%安、印度まぐろが12%高、ほんまぐろが3%安、類計では6%安。いか類はするめ

いかの国内物が 18 % 安、もんこういかが 7 % 高で、類計では前年並み。かれい類は、あさばかれいが 5 % 高、からすかれいが 38 % 安で、類計では 1 % 安。さけ・ます類は、しろさけ・べにさけ・ぎんさけがそれぞれ 8 %・22 %・27 % 安で、類計では 18 % 安。えび類は、あかえびが 16 % 安、インドネシアが 6 % 高、インドが 16 % 高。かに類は、煮たらばが 3 % 安、煮ずわいが 8 % 高、類計では 6 % 安。ぎんたらは 7 % 高、さばは 22 % 安、たこは前年並み。

☆ 加工品	取扱数量 21,889 t (対前年比 96.6 %)
	平均価格 748 円 (// 10 円高)

取扱数量は、塩蔵品類は、塩しろさけ・塩ぎんさけはそれぞれ 10 %・42 % 増加し、塩あきさけ・塩べにさけはそれぞれ 41 %・26 % 減少した。いくら・すけこはそれぞれ 14 %・18 % 減少し、類計では 12 % 減。塩干品類は、開干あじが 6 % 減、開干さんまが 8 % 減で、類計では 11 % 減。煮干製品類は、しらす干が 57 % 増で、類計が 27 % 増。焼物製品類は、蒲焼うなぎが 47 % 減、類計では 42 % 減。素干品類は、干するめ (国内) が 25 % 増、類計では 1 % 増。練製品類は 2 % 増、湯煮品類は煮たこが前年並み、類計で 4 % 増。

平均価格は、塩蔵品類は塩あきさけ・塩しろさけ・塩べにさけ・塩ぎんさけがそれぞれ 17 %・11 %・26 %・24 % 安く、いくら・すけこはそれぞれ 37 %・25 % 高い。類計では 12 % 安。塩干品類は、開干あじが 6 % 安、開干さんまが 6 % 高、類計ではほぼ前年並み。煮干製品類は、しらす干が 1 割安、類計では 7 % 安。焼物製品類では、蒲焼うなぎが 38 % 高、類計では 26 % 高。素干品類は、干するめ (国内) が 14 % 安、類計では 6 % 安。練製品類は 2 % 安、湯煮品類は煮たこが 11 % 安、類計で 8 % 安。

— 11 月 —

☆ 鮮 魚	取扱数量 18,156 t (対前年比 102.9 %)
	平均価格 867 円 (// 70 円安)

取扱数量は、まぐろ類は、めじが引き続き漁況がよいため 2.5 倍と大幅に増えたほか、国内物が 27 % 増、輸入物が 12 % 増、めばちの国内物が 32 % 減、めばちの輸入物が 31 % 減となり、類計では 3 % 増にとどまった。まあじは三重・千葉・石川もの主体に 8 % 減。さばは岩手・宮城・長崎物を中心に 18 % 減、まいわしは不漁の影響で、千葉・伊東・愛媛もの中心に 62 % 減。するめいかは、漁況の回復により青森・北海道もの中心に 36 % 増。はまちは 26 % 減、さんまは岩手・宮城・千葉物を中心に 8 % 増。

平均価格は、まぐろ類は、国内物が 52 % 高、輸入物が 6 % 安、めばちの国内物が 11 % 高、めばちの輸入物が 7 % 高、めじが 4 割安で、類計では 4 % 安。まあじは 4 % 高、さばは前年並み、まいわしは 69 % 高、するめいかは 34 % 安、はまちは 1 % 安、さんまは 1 割安。

☆ 活 魚	取扱数量 1,250 t (対前年比 89.4 %)
	平均価格 1,478 円 (// 102 円高)

取扱数量は、あなごが 13 % 減、かんばちが 11 % 減、またいが 15 % 減。

平均価格は、あなごが 1 % 高、かんばちが 8 % 安、またいが 38 % 高。

☆ 貝 類	取扱数量 4,934 t (対前年比 94.9 %)
	平均価格 935 円 (// 1 円安)

<生鮮貝類>

取扱数量は、あさりが 3 % 減、かきが 7 % 減、あか貝が 7 % 減、むきかきが 12 % 増で、類計では 7 % 減。

平均価格は、あさりが 1 % 安、かきが 4 % 安、あか貝が 3 %

高、むきかきが 18 % 安で、類計では前年並み。

<冷凍貝類>

取扱数量は 7 % 増、平均価格は 2 % 安。

☆ 冷凍魚	取扱数量 15,356 t (対前年比 104.0 %)
	平均価格 1,053 円 (// 81 円安)

取扱数量は、まぐろ類は、主力のめばちが 12 % 増、印度まぐろが前年並み、ほんまぐろが 2 % 増で、類計では 9 % 増。いか類は、生鮮するめいかの安値が響き、するめいか (国内) が 36 % 減、むきいかが 6 % 増で、類計では 21 % 減。かれい類は、あさばかれいが 67 % 増、からすかれいが 8 % 減で、類計では 28 % 増。さけ・ます類は、ぎんさけが 161 % 増、べにさけが 52 % 増、しろさけが 21 % 減で、類計では 44 % 増。えび類は、主力のインドネシアが 9 % 減、インドが 54 % 減、あかえびが 62 % 増、類計で 1 % 減。かに類は 20 % 減、ぎんたらが 36 % 減、さばが 4 % 減、たこが 10 % 増。

平均価格は、まぐろ類はめばちが 15 % 安、印度まぐろが 12 % 高、ほんまぐろが 2 % 安で、類計では 7 % 安。いか類は、するめいか (国内) が 9 % 安、むきいかが 19 % 高で、類計では 9 % 高。かれい類は、あさばかれいが 15 % 高、からすかれいが 17 % 安で、類計では 13 % 安。さけ・ます類は、ぎんさけが 33 % 安、べにさけが 2 割安、しろさけが 26 % 安で、類計では 22 % 安。えび類は、インドネシアが 9 % 高、インドが 14 % 高、あかえびが 15 % 安で、類計では 1 % 安。かに類は 1 % 高。ぎんたらが 6 % 高、さばが 18 % 安、たこが 3 % 高。

☆ 加工品	取扱数量 21,509 t (対前年比 96.3 %)
	平均価格 758 円 (// 17 円安)

取扱数量は、塩蔵品類は、塩あきさけ・塩ぎんさけ・塩べにさけがそれぞれ 20 %・16 %・24 % 減少し、塩ぎんさけが 12 % 増加した。すじこは 20 % 増、いくら・すけこは不漁の影響でそれぞれ 24 %・27 % 減で、類計では 10 % 減。塩干品類は、開干あじが 5 % 減、類計では 7 % 減。煮干製品類は、煮干いわしが 51 % 減、しらす干が 33 % 増で、類計では 1 % 減。素干品類は、干するめ (国内) が 36 % 増、類計では 6 % 増。練製品類は、揚物は 5 % 減、類計では 3 % 減。湯煮品類は、7 % 減。

平均価格は、塩蔵品類は、塩あきさけが 1 % 高、塩しろさけ・塩べにさけ・塩ぎんさけがそれぞれ 16 %・14 %・20 % 安。すじこは 6 % 高、いくららは 22 % 高、すけこは 27 % 高で、類計では 3 % 高。塩干品類は、開干あじが 4 % 安、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が 3 % 高、類計では 5 % 高。素干品類は、干するめ (国内) が 18 % 安、類計では 1 割安。練製品類は、揚物が 1 % 安、類計で 1 % 安。湯煮品類は 11 % 安。

— 12 月 —

☆ 鮮 魚	取扱数量 17,640 t (対前年比 100.8 %)
	平均価格 1,128 円 (// 30 円安)

取扱数量は、まぐろ類は まぐろの国内物が 8 % 増、輸入物が 13 % 増、めじが引き続き好調で 23 % 増、めばちの国内物が 13 % 減、めばちの輸入物が 26 % 減で、類計では 6 % 減。まあじは、千葉・秋田物中心に 4 % 増。さばは、長崎・福岡物中心に 16 % 減。まいわしは、沼津・三重物中心に 12 % 増。するめいかは、青森・北海道物中心に 16 % 増。はまちは 11 % 減となった。

平均価格は、まぐろ類は、まぐろの国内物が 33 % 高、輸入物が 1 % 安、めじが 17 % 安、めばちの国内物が 14 % 高、めばちの輸入物が 3 % 安で、類計では 7 % 高。まあじは 8 % 安、さばは 4 % 高、まいわしは 13 % 安、するめいかは 23 % 安、はまちは 5 % 安。

☆ 活 魚	取扱数量 1,629 t (対前年比 92.7 %)
	平均価格 1,490 円 (// 67 円高)

取扱数量は、あなごが 12 %減、かんぱちが 7 %減、またいが 10 %減。

平均価格は、あなごが 6 %高、かんぱちが 15 %安、またいが 31 %高。

☆ 貝 類	取扱数量	5,780 t (対前年比 99.7 %)
	平均価格	982 円 (// ± 0 円)

<生鮮貝類>

取扱数量は、あさりが 5 %増、かきが 4 %減、あか貝が 7 %増、むきかきが 15 %増で、類計では 1 %減。

平均価格は、あさりが 2 %安、かきが 5 %安、あか貝が 3 %安、むきかきが 18 %安で、類計では 1 %安。

<冷凍貝類>

取扱数量は 2 %増、平均価格は 3 %高。

☆ 冷凍魚	取扱数量	19,619 t (対前年比 102.5 %)
	平均価格	1,177 円 (// 68 円安)

取扱数量は、まぐろ類は最需要期であるとともに遠洋での漁獲が好調なこともあり、主力のめばちが 3 %増、ほんまぐろが 36 %増と増加したが、印度まぐろは 8 %減少した。いか類は、するめいか (国内) が 16 %増、もんこういかが 69 %増、むきいかが 20 %減で、類計では 7 %減。かれい類は、あさばかれいが 1 %減、からすかれいが 9 %増で、類計では 3 %増。さけ・ます類は、しろさけ・べにさけ・ぎんさけがそれぞれ 9 %・38 %・36 %増加し、類計でも 36 %増と膨らんだ。えび類は、主力のインドネシアは前年並み、インドは 16 %減、あかえびが 6 %減で、類計では 2 %減。かに類は、煮たらばが 13 %減、煮ずわいが 41 %減で、類計では 20 %減。ぎんたらが 25 %減、さばが 56 %増、たこが 3 %増。

平均価格は、まぐろ類は、めばちが 12 %安、ほんまぐろが 12 %安、印度まぐろが 14 %高で、類計では 3 %安。いか類は、するめいか (国内) が 6 %安、もんこういかが 22 %安、類計では 1 割安。かれい類は、あさばかれいが 14 %、からすかれいが 31 %安、類計では 10 %安。さけ・ます類は、しろさけ・べにさけ・ぎんさけがそれぞれ 3 %・30 %・32 %安で、類計では 28 %安。えび類は、インドネシアが 4 %高、インドが 10 %高、あかえびが 5 %安で、類計では 4 %高。かに類は 6 %高、さばが 26 %安、たこが 8 %高。

☆ 加工品	取扱数量	27,150 t (対前年比 97.9 %)
	平均価格	917 円 (// 12 円高)

取扱数量は、塩蔵品類は、塩あきさけ・塩しろさけ・塩ぎんさけがそれぞれ 3 %・6 %・20 %増加し、塩べにさけが 21 %減少した。いくらが 10 %減、すけこが 21 %減で、類計では 4 %減。塩干品類は、開干あじが 6 %減、類計でも 6 %減。煮干製品類は、煮干いわしが 10 %減、しらす干が 34 %増、類計では 15 %増。素干品類は、干しするめ (国内) が、7 %増で、類計では 3 %減。練製品類は、揚物が 8 %減、類計では 5 %減。湯煮品類は 3 %減。

平均価格は、塩蔵品類は、塩あきさけが 2 %高、塩しろさけが 17 %安、塩べにさけが 10 %高、塩ぎんさけが 24 %安、いくらが 11 %高、すけこが 29 %高で、類計では 1 %高。塩干品類は、開干あじが 2 %安、類計では 2 %高。煮干製品類は、煮干いわしが 3 %高、しらす干が前年並みで、類計では 1 %高。素干品類は、干しするめ (国内) は 13 %安、類計では 6 %安。練製品類は、揚物が前年並み、類計では 4 %高。湯煮品類は 5 %安。

2 主要品目の取扱高

(1) まぐろ類

生鮮物は、取扱数量が前年比 2 %の増加で 19,224 t、平均価格では、20 円安の 1,505 円となった。品目別に比較すると、取扱数量では、まぐろの国内物が、三陸沖合のまき網漁の前年に続く好漁により、潤沢な入荷が続き 3 %増となった。めじも同様に 56 %増。輸入物は 1 %の増加。きわだの国内物が 5 %増となったが、めばちの国内物は 18 %減、輸入物は 15 %減少。平均価格では、まぐろの国内物が 216 円高の 2,426 円、輸入物が 122 円高の 3,579 円、きわだの国内物が 33 円高の 700 円、めばちの国内物が 66 円安の 2,059 円、輸入物が 3 円安の 1,483 円となった。

冷まぐろ類は、取扱数量が前年比 5 %の増加で 55,816 t、平均価格では、97 円安の 1,502 円となった。品目別には、めばちが取扱数量を 11 %伸ばしたが、ほんまぐろ・きわだが 5 %減とした。平均価格では、ほんまぐろが 198 円高の 3,266 円、きわだが 102 円安の 762 円、めばちが 142 円安の 1,032 円となった。

(2) かつお

取扱数量は、前年比 20 %の増加で 16,203 t、平均価格では 144 円安の 433 円となった。5 月には竿釣り主体にまとまった水揚げが見られるようになり、今期一番の入荷となった。その後も漁況がよいのを受けて入荷は順調だったが、全般に安値基調で推移した。特に 4～6 月にかけては、魚体が小さいものが主体になったため、前年の価格を大きく割り込んだ。

(3) はまち

取扱数量は、前年比 1 %の減少で 7,798 t、平均価格では、25 円安の 1,050 円となった。天然のいなだ・わかし等の好漁により、入荷量はいなだが前年比 69 %増、わかしが 3.7 倍増となった。これを受け、はまちは過去 20 年で最低の入荷量となった前年をさらに下回った。

(4) まあじ

取扱数量は、前年比 1 %の増加で 20,101 t、平均価格では、47 円安の 478 円となった。上半期は前年を下回る月が目立ったが、下半期には前年を下回る月が多く、通年では過去 20 年で最高の入荷量となった前年を上回った。価格はほぼ前年を下回って推移した。

(5) まいわし

取扱数量は、前年比 13 %の減少で 9,930 t、平均価格では、35 円高の 412 円となった。入荷量は 6 月以降ほぼ毎月前年を下回り、特に漁況が極端に悪化した 8 月から 11 月にかけては前年の実績を大きく割り込んだ。これに伴い、価格もそれまでの 300 円台から一挙に 700 円台に上昇した。

(6) するめいか

生鮮物は、取扱数量が前年比 3 %の増加で 15,433 t、平均価格では、53 円安の 400 円となった。入荷量は上半期には前年をやや下回ることが多かったが、8 月以降は逆に前年をやや上回ることが多かった。価格は前年並みで推移した。

冷凍物は、取扱数量が前年比 10 %の増加で 4,686 t、平均価格では、67 円安の 230 円となった。入荷量は上半期には前年をやや上回って推移したが、その後は前年を下回ることが多かった。

(7) さば

生鮮物は、毎月前年をやや下回る入荷があり、取扱数量は前年比 13 %減の 9,180 t と 1 万トン割った。平均価格では、16 円高の 522 円となった。

冷凍物は、取扱量が前年比 8 %の増加で 5,684 t、平均価格では、91 円安の 254 円となった。

(8) さんま

取扱数量が前年比 10 %の増加で 11,090 t、平均価格では、35

円安の 595 円となった。解凍物は前年を下回る入荷の月が目立ったが、1 月・11 月・12 月は前年を大きく上回った。8 月から本格的な新物の入荷はじまり、漁況は好調で新物の入荷は前年を上回って推移した。価格は新物が出回る 9 月以降になると新物・解凍物とも前年を下回った。

(9) さけ・ます類

生鮮物は、取扱数量が前年並みの 8,509 t、平均価格では、38 円安の 743 円となった。品目別には、しろさけが 7 % 減となったが、ますが 3 % 増加、輸入さけ・ますが 1 % 増加した。平均価格は、しろさけが 4 円安の 541 円、ますが 117 円安の 1,014 円、輸入さけ・ますが 39 円安の 781 円となった。

冷凍物は、取扱数量が前年比 6 % の増加で 22,255 t、平均価格では、137 円安の 572 円となった。品目別には、べにさけが 63 % 増、ぎんさけが 28 % の増加となったが、しろさけが 15 % 減、ますのすけが 28 % 減少となった。平均価格は、しろさけが 60 円安の 355 円、べにさけが 367 円安の 652 円、ぎんさけが 170 円安の 567 円、ますのすけが 29 円高の 720 円となった。

(10) えび類

生鮮物は、取扱数量が前年比 3 % の増加で 2,750 t、平均価格では、294 円安の 2,583 円となった。品目別には、むきえびが 17 % 増、まきえびが 12 % の増、しばえびが 16 % 減となった。平均価格では、まきえびが 1,337 円安の 4,747 円、しばえびが 38 円高の 879 円、むきえびが 1 円安の 1,390 円となった。

冷凍物は、取扱数量が前年比 1 % の減少で 20,413 t、平均価格では、16 円高の 1,634 円となった。品目別には、あかえびが 4 % 増、インドネシア産が 9 % 減、インド産が 9 % の減少となった。平均価格では、あかえびが 86 円安の 1,136 円、インドネシア産が 44 円高の 1,654 円、インド産が 105 円高の 1,704 円となった。

(11) 加工品

取扱数量は、1 % 減の 259,170 t、平均価格では、29 円安の 729 円となった。

塩蔵品類では、あきさけ・しろさけが 5 %・21 % 減少し、べにさけ・ぎんさけが 21 %・24 % 増加した。魚卵類はいくらが 16 % 減少したが、類計では 3 % 減少し 34,658 t、平均価格は、15 円安の 1,473 円となった。

塩干品類では、開干あじが 3 % 減、開干さんまが 15 % 減少し、類計では 5 % 減少し 40,489 t、平均価格は、2 円安の 545 円となった。

煮干製品類では、しらす干が 3 % 増、煮干いわしが 21 % 減少し、類計では 8 % 減少し 14,252 t、平均価格は、116 円安の 959 円となった。

焼物製品類では、蒲焼うなぎが 5 % 減、白焼うなぎが 29 % 減少し、類計では、6 % 減の 7,504 t となった。平均価格では、34 円安の 1,382 円となった。

素干品類では、干するめ(国内)が 15 % 増、身欠にしんが 16 % 減少し、類計では、3 % 減の 7,109 t となった。平均価格では、60 円安の 1,055 円となった。

練製品類では、取扱数量が 1 % 増の 42,130 t、平均価格が 14 円安の 503 円となった。

湯煮品類では、煮たこが 15 % 増加、類計では 7 % 増の 10,319 t、平均価格では、147 円安の 870 円となった。

3 市場別取扱高

(1) 築地市場

総取扱数量は 636,353 t で前年比 101 % (7,702 t 増) と増加、総取扱金額は、566,236 百万円で前年比 97 % (18,760 百万円減) と前年並みとなった。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が 2 % (3,621 t) 増加して 167,308 t、活魚が 4 % (527 t) 減

少し 14,001 t、貝類が 1 % (359 t) 減少し 45,564 t、冷凍魚が 5 % (8,239 t) 増加し 168,645 t、淡水魚が 14 % (323 t) 増加し 2,685 t、海藻類が 1 % (73 t) 減少して 6,635 t、加工品が 1 % (3,522 t) 減少し 231,515 t となった。取扱金額は、鮮魚が 2 % (3,208 百万円) 減少し 156,714 百万円、活魚が 1 % (187 百万円) 減少し 20,768 百万円、貝類が 3 % (1,361 百万円) 減少し 41,371 百万円、冷凍魚が 2 % (3,672 百万円) 減少し 175,833 百万円、淡水魚が 12 % (403 百万円) 減少し 2,841 百万円、海藻類が 6 % (192 百万円) 増加し 2,810 百万円、加工品が 6 % (9,738 百万円) 減少し 165,899 百万円となり、全ての分類で減少を示した。

(2) 足立市場

総取扱数量は 51,122 t で前年比 101 % (461 t 増) と増加、総取扱金額は、41,484 百万円で前年比 96 % (1,767 百万円減) と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が 1 % (180 t) 減少し 14,958 t、活魚が 12 % (67 t) 減少し 493 t、貝類が 3 % (158 t) 減少し 4,457 t、冷凍魚が 2 % (187 t) 増加し 10,837 t、淡水魚が 23 % (51 t) 増加し 272 t、海藻類が 5 % (31 t) 減少し 555 t、加工品が 3 % (659 t) 増加し 19,550 t となった。取扱金額は、鮮魚が 7 % (839 百万円) 減少し 11,269 百万円、活魚が 6 % (50 百万円) 減少し 748 百万円、貝類が 5 % (193 百万円) 減少し 3,525 百万円、冷凍魚が 6 % (697 百万円) 減少し 10,175 百万円、淡水魚が 5 % (13 百万円) 減少し 253 百万円、海藻類が 14 % (37 百万円) 減少し 229 百万円、加工品が前年並み (62 百万円増) で 15,284 百万円となった。

(3) 大田市場

総取扱数量は 35,196 t で前年比 95 % (1,664 t 減) と減少、総取扱金額は、32,062 百万円で前年比 94 % (2,187 百万円減) と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が 4 % (696 t) 減少し 15,585 t、活魚が 5 % (58 t) 減少し 1,198 t、貝類が 3 % (82 t) 減少し 2,369 t、冷凍魚が 10 % (782 t) 減少し 7,357 t、淡水魚が 1 % (1 t) 減少し 195 t、海藻類が 5 % (18 t) 増加し 387 t、加工品が 1 % (62 t) 減少し 8,105 t となった。取扱金額は、鮮魚が 7 % (910 百万円) 減少し 12,410 百万円、活魚が 1 % (20 百万円) 増加し 1,688 百万円、貝類が 4 % (73 百万円) 減少し 1,978 百万円、冷凍魚が 13 % (1,145 百万円) 減少し 7,698 百万円、淡水魚が 20 % (49 百万円) 減少し 193 百万円、海藻類が前年並み (0 百万円減) で 270 百万円、加工品が前年並み (31 百万円減) で 7,825 百万円となった。

4 卸売業者別取扱高

(1) 築地市場

① 大都魚類(株)

総取扱数量は 135,234 t で前年比 105 % (6,845 t 増) と増加、総取扱金額は、118,565 百万円で前年比 100 % (329 百万円減) と前年並みとなった。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が 6 % (1,961 t) 増加し 35,321 t、活魚が 4 % (143 t) 減少し 3,651 t、貝類が前年並み (39 t 減) で 13,719 t、冷凍魚が 11 % (5,441 t) 増加し 55,535 t、淡水魚が 19 % (102 t) 増加し 628 t、海藻類が 1 % (6 t) 増加し 608 t、加工品が 2 % (484 t) 減少し 25,773 t となった。取扱金額は、鮮魚が 2 % (705 百万円) 増加し 33,569 百万円、活魚が 5 % (272 百万円) 減少し 5,203 百万円、貝類が 1 % (59 百万円) 減少し 11,526 百万円、冷凍魚が 1 % (531 百万円) 増加し 47,458 百万円、淡水魚が 7 % (54 百万円) 減少し 682 百万円、海藻類が 1 % (4 百万円) 減少し 302 百万円、加工品が 6 % (1,176 百万円) 減少し 19,825 百万円となった。

② 中央魚類(株)

総取扱数量は 130,089 t で前年比 100 % (148 t 増) と前年並み、総取扱金額は、137,225 百万円で前年比 96 % (6,542 百万円

減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が2%(683 t)増加し45,242 t、活魚が5%(189 t)減少し3,665 t、貝類が1%(141 t)減少し9,363 t、冷凍魚が3%(1,351 t)増加し44,484 t、淡水魚が7%(41 t)増加し613 t、海藻類が前年並み(4 t減)で1,210 t、加工品が6%(1,593 t)減少し25,513 tとなった。取扱金額は、鮮魚が3%(1,094 百万円)減少し40,890 百万円、活魚が1%(59 百万円)増加し5,557 百万円、貝類が2%(192 百万円)減少し9,140 百万円、冷凍魚が2%(1,440 百万円)減少し56,353 百万円、淡水魚が13%(88 百万円)減少し598 百万円、海藻類が5%(34 百万円)減少し579 百万円、加工品が13%(3,545 百万円)減少し24,109 百万円となった。

③東都水産(株)

総取扱数量は122,362 tで前年比102%(2,754 t増)と増加、総取扱金額は、120,286 百万円で前年比97%(3,322 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が2%(717 t)増加し37,093 t、活魚が4%(124 t)減少し2,685 t、貝類が1%(88 t)減少し7,775 t、冷凍魚が6%(2,135 t)増加し39,672 t、淡水魚が10%(45 t)増加し482 t、海藻類が11%(71 t)減少し576 t、加工品が前年並み(139 t増)で34,079 tとなった。取扱金額は、鮮魚が4%(1,697 百万円)減少し38,475 百万円、活魚が前年並み(9 百万円増)で4,057 百万円、貝類が7%(541 百万円)減少し7,354 百万円、冷凍魚が前年並み(96 百万円増)で40,285 百万円、淡水魚が14%(78 百万円)減少し496 百万円、海藻類が13%(49 百万円)減少し317 百万円、加工品が3%(1,061 百万円)減少し29,301 百万円となった。

④築地魚市場(株)

総取扱数量は117,239 tで前年比99%(1,489 t減)と減少、総取扱金額は、92,652 百万円で前年比94%(5,615 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が1%(372 t)減少し32,693 t、活魚が5%(193 t)減少し3,637 t、貝類が前年並み(7 t減)で7,451 t、冷凍魚が6%(1,401 t)減少し20,297 t、淡水魚が14%(79 t)増加し645 t、海藻類が6%(68 t)増加し1,274 t、加工品が1%(336 t)増加し51,241 tとなった。取扱金額は、鮮魚が1%(323 百万円)減少し29,416 百万円、活魚が2%(136 百万円)減少し5,439 百万円、貝類が4%(289 百万円)減少し6,383 百万円、冷凍魚が12%(3,038 百万円)減少し21,725 百万円、淡水魚が16%(140 百万円)減少し714 百万円、海藻類が1%(4 百万円)増加し503 百万円、加工品が6%(1,692 百万円)減少し28,469 百万円となった。

⑤第一水産(株)

総取扱数量は51,673 tで前年比102%(896 t増)と増加、総取扱金額は、44,051 百万円で前年比97%(1,342 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が4%(630 t)増加し16,959 t、活魚が51%(122 t)増加し363 t、貝類が1%(85 t)減少し7,256 t、冷凍魚が5%(396 t)増加し8,341 t、淡水魚が21%(56 t)増加し317 t、海藻類が26%(182 t)増加し891 t、加工品が2%(405 t)減少し17,547 tとなった。取扱金額は、鮮魚が5%(798 百万円)減少し14,364 百万円、活魚が113%(271 百万円)増加し512 百万円、貝類が4%(278 百万円)減少し6,967 百万円、冷凍魚が前年並み(16 百万円増)で9,848 百万円、淡水魚が11%(44 百万円)減少し351 百万円、海藻類が7%(14 百万円)増加し222 百万円、加工品が4%(523 百万円)減少し11,786 百万円となった。

⑥丸千代田水産(株)

総取扱数量は68,165 tで前年比100%(279 t減)と前年並み、総取扱金額は、43,143 百万円で前年比98%(851 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、前年まで取扱のなかった冷凍魚が計上されて317 t、海藻類が12%(272 t)減少し2,004 t、加工品が前年並みで(323 t減)で65,844 tと

なった。取扱金額は、冷凍魚が計上されて164 百万円、海藻類が13%(122 百万円)減少し816 百万円、加工品が2%(893 百万円)減少し42,163 百万円となった。

⑦総合食品(株)

総取扱数量は11,591 tで前年比91%(1,173 t減)と減少、総取扱金額は、10,315 百万円で前年比92%(849 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、海藻類が34%(19 t)増加し73 t、加工品が9%(1,192 t)減少し11,518 tとなった。取扱金額は、海藻類が1%(1 百万円)減少し70 百万円、加工品が8%(848 百万円)減少し10,245 百万円となった。

(2) 足立市場

①東京北魚(株)

総取扱数量は20,375 tで前年比105%(998 t増)と増加、総取扱金額は、15,845 百万円で前年比99%(142 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が前年並み(16 t減)で4,448 t、活魚が31%(49 t)減少し110 t、貝類が11%(194 t)減少し1,499 t、冷凍魚が20%(758 t)増加し4,636 t、淡水魚が6%(4 t)増加し76 t、海藻類が3%(7 t)減少し192 t、加工品が6%(502 t)増加し9,413 tとなった。取扱金額は、鮮魚が8%(283 百万円)減少し3,170 百万円、活魚が23%(51 百万円)減少し169 百万円、貝類が11%(155 百万円)減少し1,272 百万円、冷凍魚が6%(245 百万円)増加し4,313 百万円、淡水魚が19%(15 百万円)減少し63 百万円、海藻類が11%(11 百万円)減少し94 百万円、加工品が2%(128 百万円)減少し6,766 百万円となった。

②大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は16,762 tで前年比99%(166 t減)と減少、総取扱金額は、13,786 百万円で前年比96%(618 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が1%(50 t)減少し5,619 t、活魚が4%(8 t)減少し186 t、貝類が9%(125 t)増加し1,530 t、冷凍魚が7%(276 t)減少し3,538 t、淡水魚が65%(43 t)増加し110 t、海藻類が4%(7 t)減少し179 t、加工品が前年並み(8 t増)で5,600 tとなった。取扱金額は、鮮魚が5%(248 百万円)減少し4,264 百万円、活魚が3%(8 百万円)増加し283 百万円、貝類が3%(40 百万円)増加し1,209 百万円、冷凍魚が11%(385 百万円)減少し3,285 百万円、淡水魚が27%(22 百万円)増加し105 百万円、海藻類が7%(6 百万円)減少し71 百万円、加工品が1%(49 百万円)減少し4,569 百万円となった。

③中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は13,986 tで前年比97%(371 t減)と減少、総取扱金額は、11,853 百万円で前年比92%(1,007 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が2%(114 t)減少し4,891 t、活魚が5%(10 t)減少し196 t、貝類が6%(88 t)減少し1,428 t、冷凍魚が10%(294 t)減少し2,663 t、淡水魚が5%(4 t)増加し86 t、海藻類が8%(17 t)減少し184 t、加工品が3%(148 t)増加し4,538 tとなった。取扱金額は、鮮魚が7%(308 百万円)減少し3,835 百万円、活魚が2%(7 百万円)減少し296 百万円、貝類が7%(78 百万円)減少し1,045 百万円、冷凍魚が18%(556 百万円)減少し2,577 百万円、淡水魚が20%(21 百万円)減少し86 百万円、海藻類が24%(20 百万円)減少し65 百万円、加工品が前年並み(17 百万円減)で3,949 百万円となった。

(3) 大田市場

①東京大田魚市場(株)

総取扱数量は20,510 tで前年比97%(685 t減)と減少、総取扱金額は、18,888 百万円で前年比93%(1,479 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が前年並み(14 t)減少し9,992 t、活魚が10%(35 t)減少し315 t、貝類が1%(7 t)減少し1,193 t、冷凍魚が12%(609 t)減少し4,515

と、淡水魚が13%（12t）減少し81t、海藻類が11%（20t）減少し168t、加工品が前年並み（12t増）で4,246tとなった。取扱金額は、鮮魚が6%（532百万円）減少し8,282百万円、活魚が2%（10百万円）減少し480百万円、貝類が5%（56百万円）減少し1,044百万円、冷凍魚が14%（786百万円）減少し4,724百万円、淡水魚が21%（23百万円）減少し87百万円、海藻類が11%（21百万円）減少し175百万円、加工品が1%（50百万円）減少し4,095百万円となった。

②大都魚類(株)大田支社

総取扱数量は14,687tで前年比94%（979t減）と減少、総取扱金額は、13,174百万円で前年比95%（708百万円減）と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が11%（682t）減少し5,593t、活魚が2%（23t）減少し883t、貝類が6%（75t）減少し1,175t、冷凍魚が6%（173t）減少し2,842t、淡水魚が10%（11t）増加し114t、海藻類が21%（37t）増加し220t、加工品が2%（75t）減少し3,859tとなった。取扱金額は、鮮魚が8%（378百万円）減少し4,128百万円、活魚が3%（31百万円）増加し1,209百万円、貝類が2%（17百万円）減少し934百万円、冷凍魚が11%（358百万円）減少し2,973百万円、淡水魚が20%（26百万円）減少し106百万円、海藻類が28%（21百万円）増加し94百万円、加工品が1%（20百万円）増加し3,730百万円となった。

5 買付比率

全体の買付比率は、取扱数量が52.8%と前年を1.8ポイント上回り、取扱金額が52.7%と前年を1.8ポイント上回った。市場別では、築地市場が取扱数量で53.1%と前年を1.9ポイント上回り、取扱金額で52.0%と前年を1.9ポイント上回った。足立市場が取扱数量で45.9%と前年を1.0ポイント上回り、取扱金額で53.8%と前年を1.2ポイント上回った。大田市場が取扱数量で57.5%と前年を2.4%上回り、取扱金額で65.2%と前年を3.4ポイント上回った。

卸売業者別には次の表のとおり

卸 売 業 者 別 買 付 比 率

	取 扱 数 量			取 扱 金 額		
	平成12年	平成11年	差	平成12年	平成11年	差
総 計	52.8	51.0	1.8	52.7	50.9	1.8
(築地市場)	53.1	51.2	1.9	52.0	50.1	1.9
大 都 魚 類	52.2	50.3	1.9	49.3	47.8	1.5
中 央 魚 類	49.3	48.7	0.6	50.3	49.7	0.6
東 都 水 産	49.6	47.8	1.8	49.1	46.7	2.4
築 地 魚 市 場	46.6	42.5	4.1	44.7	40.9	3.8
第 一 水 産	42.0	40.3	1.7	45.6	44.2	1.4
丸千代田水産	88.3	86.9	1.4	90.2	89.7	0.5
綜 合 食 品	53.3	52.2	1.1	70.1	67.1	3.0
(足立市場)	45.9	44.9	1.0	53.8	52.6	1.2
東 京 北 魚	47.2	44.4	2.8	59.6	57.9	1.7
大都魚類・千住	44.6	46.8	-2.2	50.2	50.5	-0.3
中央魚類・千住	45.6	43.5	2.1	50.1	48.4	1.7
(大田市場)	57.5	55.1	2.4	65.2	61.8	3.4
東京大田魚市場	57.7	57.5	0.2	67.2	64.8	2.4
大都魚類・大田	57.2	51.9	5.3	62.3	57.2	5.1

6 出荷地別取扱高

(1) 総取扱高

都道府県別の取扱数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位青森・7位三重・8位愛知・9位神奈川・10位茨城となり、1位から6位までと9・10位は前年と同順位で、三重と愛知の順位が入れ替わった。取扱金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位青森・7位神奈川・8位三重・9位愛知・10位愛媛となった。

(2) 鮮魚取扱高

取扱数量では、1位東京・2位千葉・3位宮城・4位北海道・5位青森・6位愛媛・7位福岡・8位三重・9位静岡・10位長崎となった。三重と静岡が入れ替わった。

(3) 冷凍魚取扱高

取扱数量では、1位東京・2位静岡・3位大阪・4位青森・5位宮城・6位神奈川・7位北海道・8位千葉・9位福岡・10位愛知となった。青森と宮城、北海道と千葉がそれぞれ入れ替わり、愛知が10位に順位を下げ、福岡がベスト10入りした。

(4) 加工品取扱高

取扱量では、1位東京・2位千葉・3位静岡・4位宮城・5位北海道・6位茨城・7位愛知・8位福島・9位神奈川・10位兵庫となった。宮城と北海道、神奈川と兵庫がそれぞれ入れ替わった。

表 1 年次別取扱高

(単位:トン・千円・%)

	平成12年	平成11年	平成10年	平成 9年	平成 8年	平成 7年	平成 6年
総数量	722,672	716,173	715,380	715,250	725,624	738,236	762,829
前年比	100.9	100.1	100.0	98.6	98.3	96.8	97.5
総金額	639,782,342	662,495,686	664,949,765	690,674,765	696,941,817	680,172,945	712,946,992
前年比	96.6	99.6	96.3	99.1	102.5	95.4	95.3

表2-1 年次別魚種別取扱数量

(単位:トン・%)

年次	平成12年		平成11年		平成10年		平成9年		平成8年		前年比					指 数
魚種	数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	11年	10年	9年	8年	7年	7年=100
総 数	722,672	100.0	716,173	100.0	715,380	100.0	715,250	100.0	725,624	100.0	100.9	100.1	100.0	98.6	98.3	98
鮮 魚	197,850	27.4	195,106	27.2	188,626	26.4	192,221	26.9	183,138	25.2	101.4	103.4	98.1	105.0	95.5	103
活 魚	15,691	2.2	16,344	2.3	15,767	2.2	14,349	2.0	13,995	1.9	96.0	103.7	109.9	102.5	95.5	107
貝 類	52,390	7.2	52,989	7.4	54,674	7.6	56,077	7.8	57,631	7.9	98.9	96.9	97.5	97.3	102.6	93
冷凍魚	186,840	25.9	179,196	25.0	181,681	25.4	176,770	24.7	186,010	25.6	104.3	98.6	102.8	95.0	97.1	98
淡水魚	3,152	0.4	2,779	0.4	3,055	0.4	3,469	0.5	4,185	0.6	113.4	91.0	88.1	82.9	97.2	73
海藻類	7,577	1.0	7,664	1.1	8,060	1.1	7,768	1.1	7,761	1.1	98.9	95.1	103.8	100.1	102.1	100
加工品	259,170	35.9	262,096	36.6	263,518	36.8	264,595	37.0	272,904	37.6	98.9	99.5	99.6	97.0	100.3	95

表2-2 年次別魚種別取扱金額

(単位:百万円・%)

年次	平成12年		平成11年		平成10年		平成9年		平成8年		前年比					指 数
魚種	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	11年	10年	9年	8年	7年	7年=100
総 数	639,782	100.0	662,496	100.0	664,950	100.0	690,675	100.0	696,942	100.0	96.6	99.6	96.3	99.1	102.5	94
鮮 魚	180,394	28.2	185,351	28.0	183,923	27.7	189,533	27.4	187,659	26.9	97.3	100.8	97.0	101.0	101.2	97
活 魚	23,205	3.6	23,422	3.5	23,796	3.6	25,564	3.7	25,190	3.6	99.1	98.4	93.1	101.5	104.3	96
貝 類	46,874	7.3	48,501	7.3	49,063	7.4	51,482	7.5	51,848	7.4	96.6	98.9	95.3	99.3	99.4	90
冷凍魚	193,705	30.3	199,218	30.1	198,489	29.9	207,118	30.0	208,194	29.9	97.2	100.4	95.8	99.5	105.7	98
淡水魚	3,288	0.5	3,753	0.6	4,438	0.7	4,950	0.7	5,386	0.8	87.6	84.6	89.7	91.9	98.7	60
海藻類	3,308	0.5	3,537	0.5	3,560	0.5	3,157	0.5	3,073	0.4	93.5	99.4	112.8	102.8	102.9	111
加工品	189,007	29.5	198,714	30.0	201,681	30.3	208,871	30.2	215,593	30.9	95.1	98.5	96.6	96.9	101.2	89

表2-3 年次別魚種別平均価格

(単位:kg/円・%)

年次	平成12年		平成11年		平成10年		平成9年		平成8年		対平成7年(1995)指数				
魚種	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	11年	10年	9年	8年	7年
総 数	885	95.7	925	99.5	930	96.3	966	100.5	960	104.2	96	100	101	105	104
鮮 魚	912	96.0	950	97.4	975	98.9	986	96.2	1,025	106.0	94	98	101	102	106
活 魚	1,479	103.2	1,433	95.0	1,509	84.7	1,782	99.0	1,800	109.1	90	87	92	108	109
貝 類	895	97.8	915	102.0	897	97.7	918	102.0	900	96.9	96	99	97	99	97
冷凍魚	1,037	93.3	1,112	101.8	1,093	93.2	1,172	104.7	1,119	108.9	101	108	106	114	109
淡水魚	1,043	77.2	1,350	93.0	1,453	101.8	1,427	110.9	1,287	101.5	82	107	115	113	102
海藻類	437	94.6	462	104.5	442	108.7	406	102.7	396	100.7	111	117	112	103	101
加工品	729	96.2	758	99.1	765	97.0	789	99.9	790	100.9	93	97	98	101	101

表3-1 市場別・年次別取扱数量

(単位:トン・%)

市 場	年次 区分	平成12年		平成11年		平成10年		平成9年		平成8年	
		数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比
総 数	数 量	722,672	100.0	716,173	100.0	715,380	100.0	715,250	100.0	725,624	100.0
	前年比	100.9	-	100.1	-	100.0	-	98.6	-	98.3	-
築 地	数 量	636,353	88.1	628,651	87.8	622,533	87.0	620,958	86.8	628,567	86.6
	前年比	101.2	-	101.0	-	100.3	-	98.8	-	98.2	-
足 立	数 量	51,122	7.1	50,661	7.1	52,605	7.4	53,887	7.5	57,272	7.9
	前年比	100.9	-	96.3	-	97.6	-	94.1	-	98.0	-
大 田	数 量	35,196	4.9	36,861	5.1	40,242	5.6	40,405	5.6	39,786	5.5
	前年比	95.5	-	91.6	-	99.6	-	101.6	-	100.8	-

表3-2 市場別・年次別取扱金額

(単位:百万円・%)

市 場	年次 区分	平成12年		平成11年		平成10年		平成9年		平成8年	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
総 数	金 額	639,782	100.0	662,496	100.0	664,950	100.0	690,675	100.0	696,942	100.0
	前年比	96.6	-	99.6	-	96.3	-	99.1	-	102.5	-
築 地	金 額	566,236	88.5	584,996	88.3	582,656	87.6	605,913	87.7	610,378	87.6
	前年比	96.8	-	100.4	-	96.2	-	99.3	-	102.4	-
足 立	金 額	41,484	6.5	43,250	6.5	45,030	6.8	47,616	6.9	49,747	7.1
	前年比	95.9	-	96.0	-	94.6	-	95.7	-	101.9	-
大 田	金 額	32,062	5.0	34,249	5.2	37,263	5.6	37,146	5.4	36,817	5.3
	前年比	93.6	-	91.9	-	100.3	-	100.9	-	104.8	-